

沖縄語 かわら版

沖縄語を話す会会報

第2号

2004年6月30日発行

会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 眞正



沖縄タイムス 2001年12月12日 「遊び庭」から

「^{おきなわ} ^ご ^{はな} ^{かい} ^{ちち} ^{たけーんあち} ^{びんちよーい} ^{しながわ} ^{あーさき} 沖縄語を話す会」 月に二回集まてぬ勉強会、品川ぬ大崎をて

- ・ ^{おきなわたいわ} 沖縄対話 ----- 山路安清
- ・ ^{うとー} ^{ちゅい} 御父ぬ一人ゆんたく ----- 野原ツル子
- ・ ^{うちなー} ^{くちちか} 沖縄口使やびら ----- 伊佐トミ子
- ・ ^{たましえ} ^{うちなー} ^{ちゅ} ^{にー} 魂 - 沖縄ん人 (2) ----- 新垣清松
- ・ かぎやで風節 ----- (y)
- ・ ^{いくさうわ} ^{がっこー} 戦終てちゃーきぬ学校 ----- 國吉 (眞)
- ・ ^{じむきょく} 事務局から

西暦1866年(しんはっぴゃくるくじゅーるくに

ん)(慶応2年)生まれぬ我達たんめー西平賀福翁が

14ぬ歳ぬ時分廃藩ぬあて、県庁や大和口習一す

んち「沖縄対話」んて言う書物作とーいびーん。

我達んうり使て勉強さびたしが、今ぬ言葉とーゆか

い変わて、難さいびーたん。

うぬたんめーや、土ぬ「嗜み」どっし、新聞ど

が四書(大学、中庸、論語、孟子)読だい墨習一

さい、唄三線しみしえーたくど、大和口ん解て一居み

しえーたんて、思やびーしが、使いみしえーびらんたん。

我んにん時々ー「たんめーさい。鼻緒ぬ切りやび

たくど付きて呉みそーれー。」どか、中学生成てか

らー「漢文習いが来やーびたん。」て言ち、沖縄口び

けーんっし話そーいびーたん。

今考ーいねー、我達ん学校をて英語一習てん、う

らんだーとー話ーしーゆーさん事ど似ちよーいび

ーさ。

やいびーしが、大正九年我ん女ぬ親ぬ、今ぬ和

洋女子大卒業さる時に、たんめーや我ん女ぬ親迎

ーいるたみ胴一人っし羽織・袴着ち、パナマ帽被て

大阪商船っし三夜四日かかて神戸までめんそーち、

うぬ後汽車っし東京んかいめんそーちよーいびー

ん。

大和口使いみそーらんたるうぬたんめーや、如何ん

如っし船乗たい、汽車ぬキップ買たいしみそーちや

がやーんて思やびーん。

東京をて一、親子まじゅんあまくま見物そーみし

えーびーん。

家んかいカンカン帽んあいびたくど、洋服ん着みそ

ーちやがやーんて思やびーん。

御清明どか七月ねー、糸ーかぬ達ぬ集まて活計

うさがいがちーなぬ話一、諸沖縄口やいびーたん。

「女あてなしぬ筆持ちゆし知らん五ち指形

ぬ御状ぬ印」んて言う琉歌ぬ如、我達はんしー達

ぬ時分一、女一学問しえー成らんて言らつとーいび

ーたくど、沖縄口ぬ暮らしそーみしえーびーたん。

明治十八年女ん子ぬ小学校んかい通いる前や、

「沖縄対話」や男びけーんっし、使てど居たがやー

んて思やびーさ。

***** ~ *****

沖縄字(と、て、で、・・・)にちてー、終わ

いぬページ見ち御賜みしえーびり。沖縄字使て会報

作やびたん。読み易さんて思とーいびーしが、如何

ぬ風儀やいびーたがやー。御所な御考ー聞かち御

賜みしえーびり。

大和字組み合ち書ちーねー、読むしが難さいびー

しが、くぬ沖縄字や組み合しえーさん如一字さーに

か書ちやびーん。読み慣りーねー便利な物やいびーくと、

くぬ号ん続きて読て御賜みしえーびり。

うとー ちゆい
御父ぬ一人ゆんたく 野原ツル子（練馬区）

わたたーうとー いっぺーさきじょーぐー
我達御父や一杯酒上戸やいびーたん。

めーゆるあーむい
毎夜泡盛うさがみそーち、あんまー分かし物小うさ
がいがちーなー、ゆんたくそーみしえーびーたん。

わ どちどちえ うやこーこー うとーえーぐー かんかし
我んねー時々ー親孝行ぬために、御父相手っし昔

ばなし ち
話聞ちやいそーいびーたん。

やがて、さーふーふー小しみしえーいねー、ちゃー口
から出じーる琉歌ぬあいびーたん。うれー下ぬ歌や
いびーん。

「さき ちむ じょ
酒や肝ぬ門ぬ さしぬがやゆら 飲みば飲む

ふどに 開ち行ちゆさ」

わ 我んねー酒ー飲みゆーさびらんしが、酒上戸ぬ心地

一解いんねーさびーん。

わか 若さる時分に良ー聞かさつとーいびーたくど、今ち

きて忘らん、我ん心んかい残とーいびーん。

また何んてちえー無ーん、うぬ歌ー好ち成とーいびー
ん。



うちなーぐちちか
沖繩口使やびら 伊佐トミ子（那覇市）

うちなーぐちね
沖繩口無ーんなちえー成らんで言ち、近頃ーテレ

ビ、ラジオ、学校んじん気掛きて使いる如成とーい

びーしが、御所なー達「沖繩語を話す会」や大和を

じゅーにんあま うちなーぐち ふか じぶんじぶん なれ ゆ
て、十年余い沖繩口ぬ他、うぬ時分時分ぬ習一、寄し

ぐど びんちよー
言までん勉強そーみしえーんで言みしえーくと、ふい
るまさそーいびーさたい。

んかし うちなー くとば へん ちゆくに すた ななくに
昔ぬ沖繩ぬ言葉なかい「生まり一郷 育ちや七郷」

んちあいびーくと、遠さ沖繩離りとーでん、くりか

ら後ん続きみそーりよーたい。

うんじゅ たー とーちよー
御所なー達や東京んかい住まとーみしえーびでん、

うちなー くとゆ し たー な
沖繩ぬ事良一知つちよーみしえーしが、誰がん成い
るむのーあいびらんどーたい。

ちち は へんま は
月ぬ走いや馬ぬ走いんで言ち「あね！」んで言る

へーだ へーびー た ちぬー くと うむ わらび
間に日日ぬ経つち、昨日ぬ事んで思やびーしが、童

ぬ時分我達あんまーや「平生から『言葉銭遣一』ん

ちあくど、細ーきて良ー使りよー」んで言ち習一し

みしえーたくど、今ちきて子孫ぬ達んかい、うん

なくど話そーいびーん。

くとば やーにんじゅ どし ちやー ちか うび
言葉一和家人衆どか同土ぬ達と使でど覚やびーくと、

へーじゅ うちなーぐちちか ぐどちが な
平生からなるびち沖繩口使いる如気掛きらんねー成
いびらんさたい。

いるいるか ゆ ぐり
色々書ちやびたしが、読み苦さるとくるんあいび

て御無礼さびたん。くねーて呉みしえーびれー。



くとば へんちか
「言葉銭遣一」：言葉は銭と同じように使い方によって自分や
社会を益することができる。従って、言葉は高い価値を生むように
使わねばならない。 出典「沖繩の黄金言（有）沖繩総合図書」

いくさめー いなか やまとぐちちか
戦 前や田舎をてー、大和口使いみしえーるちねー
ね
や無ーびらんでーくと、 標 準 語 覚ーしえー先生ど
すむち
書物からどやいびーたる。

やまと い ちゆ ちゃー ぶーたい い
大和んかい 行ちゆるつ人ぬ 達、また兵隊んかい 行
ちゆる わか たー やまと ちゆ ぶ むん い
ちゆる若ー達が、大和ん人んかい 振り者で言らつて
な
一 成らんむんで言ち、 先生達や生徒んかい 標 準 語
ちか くと なか うちなーぐち
使いる事あぎまーする世ぬ中やいびーたん。 沖繩口
わし な にほんこくみん ぐっしん たみ
忘てー成いびらんしが、日本国民どっし立身ぬ為ね
しかた ね くと
一 仕方ー無ーらん事やいびーたん。

わったーやー どない ちゆ あらかちしょーてん い ざっか ぶか
我達家ぬ 隣 ンかい 新垣 商店で言ち、 雑貨ぬ他に
ざっし う
雑誌ん売とーいびーたん。 いちゆくやいびーくと
どちどち てまぶー い ざっし ゆ うっ うっ
時々でがねーっし、 手間小んで言ち雑誌読で嬉さ嬉
さーさびたん。

よーねんくらぶ しよーねんくらぶ か あけち
幼年倶楽部どか 少年倶楽部んかい 書ちえーる「明智
たんでい み ひこうき てきちゅうおうだんさんびやくり
探偵」、「見えない飛行機」、「敵中横断三百里」ど
いっぺー むちか くとば
か一杯ぬーりきさぬ、 あんし 難 さる言葉んなんくる
うび
覚やびたん。

わったーうちなー ちゆ ひよーじゆんご そーむん うむ
我達沖繩人ぬ 標 準 語ー正物で思とーいびー
んかしくんたい を どち ふくおかけん たいちよー
ん。 昔 軍隊んかい 居たる時に福岡県生まれぬ隊長
わ ひよーじゆんご とーちよー ちゆ か い
や、我ん 標 準 語ー東京ぬっ人と変わらんで言みし
えーびーたん。 うちなー ちゆ やまとぐちえ な
沖繩人やくと、大和口 一 成いがや
い しわ はじ
一 んで言ち心配しみそーちやる筈やいびーん。



「かぎやで風節」や「かじやで風節」んで読まびー
ん。 踊い、 歌、 三線でーっし、 祝儀座ぬあいねー必
じ出じゃさりーる沖繩ぬ芸能やいびーん。 歌ぬ言葉
一、 「沖繩大辞典」でー見じーねー

(1) けふのほこらしややなをにぎやな喩てる蕾でを
る花の露きやたごと
な かんし か かつ
成とーやびーん。 くれー 昔ぬ書ち方やいびーくと、 読
み苦さいびーん。 わか やっ くとか のー
解い易さる如書ち直しーねー、
(2) 今日ぬ誇らしゃや なちにじゃな喩てる

ついで ちゆ はな ついで くと
蕾で居る花ぬ 露 ちやた如
な はちはちはちるく るーか な いち
成いびーん。 8 8 8 6ぬ琉歌成とーやびーん。(1)
と(2)とー読み方ーいぬ物どやいびーる。「今日」
や書ち言葉、 平生や「今日」、いぬ如っし「蕾」や
「露」、「露」や「露」っし済まびーん。(1)ぬ書ち
かた むちか み かんし か かつ てーしち
方ー難しく見ーやびーしが、 昔ぬ書ち方ん大切に
ぬく い な
残ち行かんだれー成いびらん。

いくさおわ がっこー
戦 終でちゃーきぬ学校 國吉(眞)(川崎市)

くぬ あま どし あーいたけん うちなー うち ち
九 ち余いぬ歳に大分県から沖繩んかい 移で来や
ーびたしが、 うんにーねー 戦 終わでちゃーきやいび
ーてーくと物ん無ーん世ぬ中やいびーたん。 学校ん
で言ちん建物ん無ーびらんとくと、 木ぬ下をどど勉
ちよー きー こくばん かわ
強んそーいびーたる。 がじまるぬ木んかい 黒板ぬ代
いたさーさ しんしー こくご じーか
い板小下ぎで、 うりんかい先生が国語ぬ字書ちみし

第二号

語句の説明（中縄語辞典、広辞苑による）

ゆかい：かなり。相当。

びけーん：ばかり。

うらんだー：西洋人。

めんしえーん：いらっしゃる。おいでになる。いる・行く・来るの敬語。

まじゅん：一緒（に）、共（に）

あまくま：あちこち。あちらこちら。

系ーか：親戚。親類。

活計かつぎ：ごちそう。

うさがいがちー：召し上がりながら。

はんしー：おばあさん。那覇の土族の祖母。

御賜うたまひみしえーびり：下さいませ。

如何ちやぬ風儀ふうぎ：どのように。

ゆんたく：おしゃべり。

さーふーふー：ほろ酔いのさま。一杯機嫌のようす。

ちゃー：いつも。

さーしぬしぬつつ：鍵。錠前に差し込むもの。

心地こころ：気持。気分。心地。

今いまちきちき：今になっても。

何なにんんちえちえ無なーんん：何ということない。何という理由はない。

気掛ちがきゆん：精出す。励む。

寄よし言ご：教訓。忠告。

ふふるまさん：不思議である。

あんまー：母。おかあさん。

細くめーきゆん：つつましくする。儉約して質素に暮らす。

なるびち：なるべく。

くねーゆん：こらえる。我慢する。

ちねー：家庭。家族。

あぎまーすん：せきたてる。

いちゆく：いとこ。

手てがねー：手伝い。加勢。

面おもーりきさん：面白い。楽しい。

なんくる：ひとりでに。自然に。

正物せいぶつ：本物。大事な物。

いぬ物いぬぶつ：同じ物。

うんにーに：そのおりに。その時に。

終わうてちゃーき：終わってすぐ。

まんぐる：ころ。おおよそその時を示す。

ふーじゃー：やぎ。

たむん：たきもの。たきぎ。

くしすん：嫌う。

ちゆけとない隣：隣近所。

ふふっちーぐしー：一日おき。隔日。

異風いふうな世よぬ中なか：変な世の中。

ばーくる：大よそ。大かた。大体。たいてい。

しーじゃ：年上（の者）

はっはちちゃちかゆん：出くわす。

肝病ちむやむん：心を痛める。

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と [tu] 　とーい(鳥) 　うと(音) 　みーと(夫婦)	と [hwe] 　とー(南) 　にとーでーびる(有難うございます)
と [to] 　とーふ(豆腐) 　とーばる(桃原)	へ [he] 　へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど [du] 　どし(友人) 　やど(宿) 　どー(自分)	や [ʔja]* 　やー(君、お前) 　やん(言わない)
ど [do] 　どーぐ(道具) 　まんどーん(たくさんある)	や [ja] 　やー(家) 　やん(である)
て [ti] 　てーち(一つ) 　てーだ(太陽) 　てん(空)	ゆ [ʔju]* 　ゆん(言う)
て [te] 　てーく(太鼓) 　てーしち(大切)	ゆ [ju] 　ゆんたく(おしゃべり)
て [di] 　ふて(筆) 　ぬーてー(喉) 　てきやー(秀才)	よ [ʔjo]* 　よーいー(おさな子)
で [de] 　でーじ(大変なこと) 　ちょーでー(兄弟)	よ [jo] 　よーんなー(ゆっくり)
か [kwa] 　かじ(火事) 　かっちー(ごちそう)	わ [ʔwa]* 　わー(豚) 　わーちち(天気)
か [ka] 　かじ(風) 　かんない(雷) 　かーま(遠方)	わ [wa] 　わーむん(私のもの)
か [gwa] 　にんかん(念願) 　かんく(頑固)	わ [ʔwi]* 　わー(上) 　わーりきさん(面白い)
が [ga] 　がんちょー(眼鏡、めがね) 　しがた(姿)	わ [wi] 　わきが(男) 　わなぐ(女)
き [kwi] 　かー(声) 　さっかー(咳) 　かゆん(呉れる)	き [ʔwe]* 　きーきー(金持ち) 　かんちゆ(ねずみ)
き [ki] 　きー(木) 　きゆん(蹴る) 　きぶし(煙)	き [we] 　ういきー(お祝) 　わじゃきー(災い)
か [gwi] 　かーく(越来「地名」)	か [ʔN]* 　かみ(梅) 　かに(稲) 　かなじ(うなぎ)
ぎ [gi] 　かーぎ(容ぼう)	か [ʔN] 　かに(胸) 　かみ(嶺井「地名」) 　かなど(港)
か [kwe] 　かー(鍬) 　からじかー(髪きり虫)	い [i]* 　いん(縁) 　いだ(枝)
け [ke] 　けー(かゆ) 　ちけー(使者)	い [ʔi] 　いん(犬) 　いーび(指) 　いちゆん(行く)
か [gwe] 　かったい(ぬかるみ)	ち [ʔu]* 　ちと(夫) 　ちーじ(さとうきび)
げ [ge] 　げー(害) 　にげー(願い)	う [ʔu] 　うと(音) 　うーび(帯)
か [hwa] 　かー(葉) 　なーか(那覇)	え [ʔe]* 　えーま(八重山) 　えーじ(八重洲)
は [ha] 　はる(畑) 　はぎもー(荒地)	え [ʔe] 　えーさち(あいさつ) 　えーじ(合図)
か [hwi] 　かじやい(左) 　かーと(いるか)	お [ʔo] 　おーじ(扇) 　おーさん(青い)
ひ [hi] 　ひやみかすん(えい、と言う)	を [ʔo] 　をーじ(王子) 　をーれー(往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方

(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例　とーい(鳥) ×とーい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。